新聞記事にみる大磯海水浴場事情

*飯田福信　**佐川和裕

一　はじめに

平成三年度より開始された大磯町史編さん事業は、本編・別編一〇巻すべてを刊行し、平成二十年度にはダイジェスト版も刊行され、その事業を終了している。この間、近・現代資料整理の一環として、大磯町に関わる新聞記事を集成した『大磯町史新聞記事目録』第一集～第三集が刊行され、併せてマイクロフィルムによる閲覧も可能となり一般の利用に供されている。新聞記事の一部には、取材頻度による信憑性、記者の独善的な解釈、話題性を得るための誇張などの可能性も否定できないが、メディアとして対象とする事柄をどのように論じているのかという点ではさまざまな視点を用意してくれている。

既に筆者も大磯町内の民俗行事に関して新聞記事からのアプローチを試みている(1)。記録性の乏しい民俗行事にあって、新聞記事として記述された内容を整理することで、補助的な情報資料としての有用性を検証しようとしたものであり、さまざまな社会状況によって常に変化しながら継承されてきた民俗行事の変遷過程を知るには好都合であった。また、明治天皇や大正天皇崩御により喪に服していた期間（諒闇）という特異な状況下における行事の様子を知ることもでき、新聞記事が極めて有用であることを実感した。

そこで、本稿では大磯海水浴場(2)に関わる新聞記事を集成することにした。明治十八年（一八八五）、陸軍軍医総監を既に退官していた松本順の進言によって開設をみた大磯海水浴場については大方の知るところであろう。当館でも、平成十九年度に開催した松本順没後100周年記念展「大磯の蘭疇　松本順と大磯海水浴場」において取り上げており、通史的な流れについては把握することができる。しかし、例えば開設にあたっての経緯については、『松本順自伝』や『蘭学全盛時代と蘭疇の生涯』（鈴木要吾）から読み取れるものの、明治四十三年七月七日の横浜貿新報には、これらの文献にはない具体的な経緯や関係者の実名などが詳しく記されている。もちろん、海水浴場開設後二十五年を経てからの記事であるため注意が必要だが、大きな手がかりとなることは間違いない。また、その後の大磯海水浴場の変遷についても、断続的な資料はあるものの、体系的に十分な検討がなされているわけではない。少なくとも新聞記事による情報の補填作業が有効であると思われる所以である。

本稿では、数多くの大磯海水浴場を取り上げた新聞記事の中から、大磯海水浴場と浴客、旅館、別荘の消長のほか、度重なる海水茶屋（掛茶屋）の運営に関わる紛争など、その時々の町の状況の中でポイントとなるような記事を抽出して解題を試みた。そこには断片的な公文書からは窺い知れないような内容を垣間見ることができる。また、本稿でも諒闇という特殊な条件下において、海水浴客や避暑避寒客にどのような影響があったのかを知ることができた。ただし、大磯海水浴場に関わる新聞記事量は非常に多く、本稿で取り上げた記事は昭和九年（一九三四）までであり、かつ全体の一部に過ぎない。その意味では研究の余地のある分野といえよう。

[*資料調査協力者　**当館学芸員]

【註】

(1) 飯田福信・佐川和裕「新聞記事にみる大磯町内の民俗行事（一）」『大磯町史研究』第十四号　平成十九年　大磯町、飯田福信・佐川和裕「新聞記事にみる大磯町内の民俗行事（二）」『大磯町史研究』第十五号　平成二十年　大磯町

(2) 大磯において最初に海水浴場が開設されたのは、照ヶ崎海岸であるが、文献によって大磯海水浴場、照ヶ崎海水浴場の呼称が使われた。その後、浴場は拡大して北進し、高磯海水浴場、北浜海水浴場などの呼称も使われるようになる。本稿では総称として大磯海水浴場と呼ぶ。

二　新聞記事解題

●大磯の禱龍館

曽て記せし如く松本良順、松平太郎等の諸氏が発起にて大磯に開きたる海水浴場禱龍館（曩日濤龍館と記せしは誤り）は準備も殆んど整ひたれば来月七日に至りて盛んなる開業式を行ふ筈なるよし　当日は松本氏の周旋にて俳優社会の大檀那とも云ふべき団十郎を東京より呼び何にうの催ふしありといふ　（『毎日新聞』明治20年7月21日）

●大磯の禱龍館

（前略）大磯小ゆるぎの浜は至極海浴に適し且つ風景もある上東海道鉄道の便開けて停車場の地ともなりければ此所に海水浴場を開かんとて先頃より松平太郎、松本順等の諸氏発起し禱龍館という松本順（良順）が、友人である松平太郎らとともに設置を進めていた旅館「禱龍館」の準備が概ね整い、明治二十年八月七日に開業式を執り行うことが分かる。当日は松本の計らいにより、市川団十郎を迎えて催しを開くという。

海水浴場を臨む大旅館「禱龍館」の開業式や同館の様子などが窺える記事である。

落成した禱龍館は、八月七日に

へるを設けたるが粗ぼ落成せしに付一昨日京浜間より貴紳国手の人々及び新聞記者発起人知因の諸氏凡そ三百名近くを招き盛んなる開業式を行へり　此日同地は高麗神社の祭日と同館の開業とを兼ねて頗る賑ひ此外右海水浴の為め京浜より出掛けて土地の旅店等に止宿し居るもの四百人近くもあるとのことなれば旁た近年になく引立ちし景気なり　禱龍館は停車場より駅に入りて右へ三丁程を行きし所の左側にあり　入口には緑門を設け国旗を掲げり　館は残らず日本造りの二階屋にて海に向ひ楼下左側に添ふて海水浴場（即ち海浜）の入口を設く　招待賓へは夫々饗応ありて余興に煙火を打ち挙げ且つ団十郎、左団次、芝翫其他新富座の俳優数名、落語家燕枝、小さんなど席を周旋し中にも升蔵、橘次等の茶番ありたり　海水浴には来賓気儘に入りて打寄する大波小波に体を打たせ或は磯に枕して余波に揺らせるなど面白くも心地爽かに覚へ出るを忘るゝ計りなりし　浜の傍らに麦藁にて龍を造り蜑婦が珠を奪い去る所の飾り物ありたり　来賓中には榎本逓信大臣　長與衛生局長等を見受けしが多き中には夕方より帰途に就くあり　又た前日より江の島鎌倉を廻り来て此の海水浴に立寄り夫れより小田原まで越さんとて出立し飽迄鉄道の便を利かせて数日の消夏を為す人あり　又たハ泊り込むなど思ひ思ひなりし　同館は楼上楼下とも客間大小交ぜて三十余間及び料理室海水温浴場等ありて浴客の滞在中は日本料理なり西洋料理なり好みに応じて調理し極客の便を計る趣きなれば旁た同館の繁昌を期すべきなり

（『毎日新聞』明治20年8月9日）

●大磯の海水浴

近頃評判の高き大磯の海水浴にては是迄海浜の浴場へは別段仕切の設けあらざりしより浴客中に開業式を開催した。当日は、東京や横浜方面より貴顕紳士や名医、新聞記者、禱龍館設立の発起人の知人など三百名近くが招待されて盛況であった。招待客の中には、市川団十郎、市川左団次、中村芝翫や新富座の俳優、落語家のほか榎本武揚逓信大臣、長與専斎衛生局長なども見受けられた。新富座では後に禱龍館を舞台とした歌舞伎演目「名大磯湯場対面」が上演されることになる。また、この日は大磯の氏神・高麗神社の祭礼日に重なったとあるが、本来は七月十七日であるため疑問が生じる。いずれにしても、四百人近くが地元の旅館等に宿泊しており、近年にない好景気であったようだ。

なお、禱龍館は停車場から三百メートル余りの距離にあり、入口の「緑門」には国旗が掲げられていた。建物はすべて日本家屋の二階建で海に面しており、階下には海水浴場への入口が設けられていた。館は一、二階の客間大小併せて三十間余りあり、調理室や海水温浴場などもある。滞在中は、日本料理や西洋料理を、浴客の好みに応じて提供することができるとしている。

大磯海水浴場が開設されて三年目、評判も次第に高くなってきたは自然深入りをなすなど危険のともありしが　今度土地のもの協力し鉄柵にて仕切を設けたれば此後は右等の心配もなかるべしといふ

（『毎日新聞』明治20年8月19日）

●大磯有志旅亭中（海水浴場の注意）

海浴ノ功験明著ナルヨリ来客ノ麇集スルニ従テ丁荘客気ノ諸君中客舎ノ忠告海瀕衛備夫ノ止ムヲ聴玉ハズ　僅カノ泳技ヲ頼テ深浅ヲ知ラス嶮浪ニ侵サルゝコト間々少ナカラス　多勢ノ客三四者ノ手ヲ以テ是ヲ済フニ由ナク徒ラニ魚腹ニ入玉ハンコトヲ憂ヒ　土人ノ協力ヲ以テ以来浴場ニ分界ヲ画シ浴者諸君ノ危嶮ヲ保守センコトヲ企望ス　願クハ海浴者各自ヲ注意シ此境外ニ出テ玉ハザランコトヲ希フ也（『毎日新聞』明治20年8月19日）

●大磯海水浴　の虚弱なる人に効能あるは言ふまでもなく殊に胃弱症に著るしき効あり　予の如き（通信者）兎角胃弱にして東京にあるの日は三度の食事（粥）さへ進み兼ねる程なりしに　同所に至り二日間朝、昼、晩の三度ヅヽ浴せしに三日目より食事（飯）進み大に爽快を覚へり、本年海水浴始まりて以来浴客一人の溺死ありし為め岩を界りて鉄杭を立てたれど別に囲ひを為したるにもあらねば遊泳に達者なる者は格別成る丈け磯近かにて浴すべし　禱龍館は賄料普通三食四十銭（大人小児の別なし）外に座敷料（八畳敷）二十五銭乃至卅八銭、夜具料廿五銭、廿銭、十五銭、十銭の四通りあり　一人前一日安く積るも一昼夜に七十五銭位かゝるが目下浴客六十人以上あり扨て此館を除き他に旅店あるかと云に汽車便の開けざる時は旅人多くは平塚、小田原の内に泊り此の大磯は殆んど間の宿の如くなり居たれば貸座敷の外は是といふ旅店なく依て養生に出掛る人は農家に就て座敷を借り切るもあり　近頃中村吉兵衛（農）旅が、これまで海水浴場には区域を示す仕切りがなく、危険な箇所もあったため、鉄柵を設け安全を確保したことが分かる。

海水浴の効用が知れ渡るに従って浴客が増加する。しかし、浴客のなかには旅館や茶屋の忠告に耳を貸さず、十分な泳力もなく、海の地形も知らないまま、波に翻弄されてしまう者が後を絶たない。そこで、危険な場所に立ち入らないよう海水浴場の範囲を区画した。

海水浴は、特に「胃弱症」に効能があり、大磯に滞在して海水浴をすれば三日目には食事も大いに進むようになるという。今期（明治二十年）は既に一名の浴客が溺死したとある。そのため、鉄杭を立て岩礁の所在について注意を促しているという。なお、泳ぎの達者な者ほど過信があるため、岸に近い所で浴すべきだとしている。禱龍館の利用料金の記載もある。食事代は三食で四十銭、部屋代が二十五銭～三十八銭、寝具代が十銭～二十五銭で、最低でも一泊につき七十五銭かかることになる。

鉄道開設以前は、旅人の多くは平塚や小田原に宿泊していた。大磯では、これといった旅館がなく、農家の座敷を借り切る、いわゆる

店を始めしが是は八畳二間一昼夜大人廿五銭、小児十五銭（夜具料も此中にあり）又石井徳右衛門といふ旅店あり八畳一間（床の間附）座敷料三十銭三食賄三十銭なり　此地に東京三河屋出店の西洋料理あれど極めて不廉なり云々と同地より通信あり　（『毎日新聞』明治20年8月28日）

●徐公使の温泉行

清国公使徐氏には令息及び楊参賛等と共に一昨日大磯の海水浴へ赴きしが夫れより箱根七湯を巡遊すると云ふ（『毎日新聞』明治20年9月16日）

●三島軽視總監　には昨日午前八時四十五分新橋発の汽車にて病気療養の為め大磯の海水浴へ赴たり　（『毎日新聞』明治21年5月26日）

●海水浴の繁昌

此程鎌倉より帰京せし人の咄しに同地及び大磯の海水浴は去る十八九日頃より漸次浴客多く当今は来客を謝絶する程にて各館主は客室を取広げんと計画し居ると云へり

（『毎日新聞』明治21年7月26日）

●相州の海水浴　左に載するは此頃相州の海水浴場近辺を遊び来りし某氏が紀行代りにとて記るし越したるものなり

近来温泉行大に流行し夏季に際しては東京近県の温泉地は一時遊客を以て充満する程なれば隨ひて旅館を増築し道路を修繕し或は遊園を開き或は別荘を新築し其騒き一方ならず　之が為め其地は折角遊邃の仙境なりしも今は熱閙の一小市と変する趣きあり　（中略）　此一両年より海水浴漸く流行して斯く盛んなりし　温泉の遊客も潮浴のために其勢ひを奪はれて盛衰地を換へたる景況なり一盛一衰は世の常なれば怪むには足らざる事ながら流行の一変したるも一奇といふべく是れぞ所謂世の風潮に推されたるものならんか　始め海水浴は神奈川県富岡に於て外国人が首唱し一二貴顕の称賛する所となり　其後大磯に禱龍館及び太田楼を起し鎌倉に海濱院を設け常陸の大洗、房州の北條、下總の千葉、相州の鵠沼、相州の片瀬小田原熱海等東京近県の海岸至る所として海水浴ならざるはなし　其内尤も盛なるは大磯にして本年の如きは貴賤の別なく民家にまで遊客充満せり　之に次くものは鎌倉にして海濱院はじめ長谷の旅舎三ツ橋其外寺院に民家に遊客の群集なかなかなり

（中略）　右の外大磯には高木軍医総監、三島警視総監、沖県知事等の別荘建築中なり　扨斯くの如く海水浴の盛に行はれ別荘の争い起る所以は本年は磐梯山の影響もあるべけれど　近来大抵の医者は頻に潮浴を慫慂し　夫れ肺病海水浴　夫れ胃病海水浴　夫れ子宮病海水浴　夫れリューマチス海水浴と殆んど海水浴の適せざる病症は之なき程の勢なるのみならず海水は温泉の如く泉源一処に局在せず涌出に限りあらざれば海浜の風景よく便利なる処を卜して旅館を設け別荘を築く事隨意なればなり　唯だ海水浴の欠点は風雨の際に行ふ能はざると風雨ならざるも奔濤激浪の為めに溺没に遇ふことある是なり　諺にも云ふ如く能く泳ぐ者は溺ると　泳術を知らざるものゝ危険なるは言を俟たざれど泳術を心得たる者も危き事なり　然れど是迄に左程凶報を聞く事の少きは奇といふべし一両日前に大磯鵠沼にて各一人の溺死あり　大磯にては之を聞きて退散する浴客一日に五十人許ありたりといへり　故に海水の浴場には柵杭を設け或は浮環の類（或いはいふ斯る場合には浮環は却て害あり）を與へなどして水葬を免かるゝの工夫あらまほしき事なり

（『毎日新聞』明治21年8月16日）

海水浴は神奈川県富岡において外国人が行なったことが始まりでその後、禱龍館や太田楼を設けた大磯、海濱院を設けた鎌倉、常陸の大洗、房州の北條、下総の千葉、相州の鵠沼や片瀬、小田原など、東京近県の海岸至る所に開設されたが、大磯が最も盛んだという。

この年（明治二十一年）、大磯では高木兼寛と三島通庸が停車場裏裏に、沖守固が東小磯に別荘を建築中であることが分かる。なお、海水浴の隆盛とともに別荘が盛んに建てられている背景には、磐梯山の影響にも一因があると述べている。これは、この年の七月十五日に磐梯山が大噴火を起こし、山体崩壊をともなう甚大な被害が発生した出来事を指している。

海水浴が多くの病気に効果があることは、既に広く知られるところであったが、同時に海水浴をするにあたっての危険性は、まだ十分に認識されていなかったようである。特に溺死者が出ると、浴客は一挙に減少してしまう有様だった。それ故、浴場に危険防止用の柵を設け、浮き輪を備えるなどの対策を講じていた。また、海水茶屋ごとに雇用していた「じいや」が、浴客の安全確保と遊泳指導に務めていた。

●馬入川の川狩

神奈川県高座郡宮山村辺ハ川狩の好場処にして鮎ハ勿論鯉、鱸等も多く繁殖せるが適当の漁具なきを以て今回横浜町の豪商数氏がゴロ引大網を新調し同地の遊船業金子方へ附與したる由　同川ハ即ち横浜水道水源の下流馬入川にて清涼幽閑の地なるが上に大磯海水浴の途次一里餘の迂回に過ぎざれば昨今遊客多しとのとなり

（『毎日新聞』明治21年8月28日）

●大磯の松林館　は是迄休業し居りたれども追ひ追ひ同所向きの季節になりたれば来る六月一日より開業し万事改良に改良を加へ賄向を廉価にするは勿論取扱上殆ど痒き処に手の届く様勉強するとの事なれば定めし一層浴客の便利を増すなるべし

（『毎日新聞』明治24年5月30日）

●大磯海水浴　来る二十一日開場（餘興として手踊茶番煙火打揚）有志旅亭中

今般新に従来の浴場に沿へる巖石を鑿り御婦女子達の浴するに安全の浴池を設け潮水は池中を自然に出入し加ふるに従前の浴場は勿論此浴池も共に強固なる鉄柵を以て之れを周らし毫も危険なからしむるに至る依て江湖の諸彦續々御来浴俯て希上候

（『毎日新聞』明治24年6月17日）

●大磯海水浴の開業式

去る廿二日大磯の有志者及旅亭等の発起にて同所海水浴の開業式を行ひたり　来賓は松本順氏の夫人　曾根大住陶綾郡長　新山警察署長　中川町長其他有志者百余人の来集あり　本年は浴池増設に付例年に異りて海中には堅固なる鉄柵を設け祝浴場開業と大書したる旗数十本を立て海浜にハ舞台を設け其前面に式場を置き正午十二時其式を行へり　烟火ハ午前八時より断間なく打揚げ又た手踊りなどありたり　禱龍館に於ては遊泳競争会を催したり　来観者無慮数千名流石に広き浴場も殆んど立錐の余地なかりしとぞ

（『毎日新聞』明治24年6月25日）

高座郡宮山村（現・寒川町）あたりは、鮎、鯉、鱸などの好漁場であるが、これまで適当な漁具がなかったため、横浜の豪商がゴロ引大網を作って提供した。大磯海水浴場とも近いため、昨今は客足が増えてきているという。

松林館が六月一日より再開することを伝えている。同館は山王町の長者林にあった旅館で、正岡子規も滞在した。この記事によれば、海水浴客を対象に季節営業をしていたように判断される。

従来の海水浴場の近くに、岩を穿って婦女子用に「浴池」を作ったとある。また、浴池には自然に海水が出入りするように工夫され、更には鉄柵をめぐらせるなど、浴客の安全確保に力を入れていた様子が分かる。

六月二十二日に海水浴場の開業式が開かれたことを伝えている。過去にも開業式を開催していたのか、あるいは今回が初めてなのか記事では分からないが、花火を合図に踊り、遊泳競争会などが催され、多くの来観者で賑わった様子が窺われる。「浴池」の増設に伴い新たに安全確保のための鉄柵を設けている。なお、開業式には松本順夫人・登喜が来賓として出席されている。

●避暑案内（五）大磯

大磯は東京を去る十七里八丁余　汽車賃四十三銭二時間余にして到るを得　時三伏に至たるも寒暖計は八十四五度を昇らず　後に武相の連山を帯び前に大洋をひかへ左には江ノ島より総房の諸山右には石橋山真鶴ヶ崎を見　別に芙蓉峰の雪表に聳ゆるを望む　百忙の裡に一閑を偸まんとする都人は土曜日の午后に来りて翌日曜日の午后七時卅四分大磯発車にて帰京するも可なり　旅館の重もなるものは松林館、禱龍館、海雲台、松仙閣、甲喜楼等にして海雲台は停車場後なる山腹にあり　禱龍館は海辺なる宿の中程にあり　甲喜楼亦然り　松林館は停車場より左へ五六丁を行きたる長者林の間にあり　青松白沙何れにあれ世に居て世を忘るゝ別天地

（『毎日新聞』明治25年7月17日）

●大磯海水浴広告　大磯旅亭中

大磯海水浴ハ江湖ノ御高評ニ由リ本年ハ一層ノ雑沓ヲ窮ナルニ至リ難有奉鳴謝・依テ老幼及ビ婦人方ノ為メ浴場保護ヲ周密ニ致シ且又大日本私立衛生会大磯支会ト町民一般協力シ日夜奔走専ラ予防ニ注意致シ居リ候得バ伝染病発生ノ慮リ之レ無ク候聞御安心御来浴ノ程奉待入候敬白

（『毎日新聞』明治28年8月24日）

●大隈伯の帰京

過般来大磯に避暑保養中なりし大隈伯には同夫人并に英麿氏夫妻一族の人々と共に昨午前十時三十分新橋着の汽車にて帰京せられたり　右に付親戚并に在京の改進党代議士党員等百余名は停車場迄出迎ひたり（『毎日新聞』明治28年8月28日）

●昨今の大磯

大磯は東京から二時間余りと至近で、汽車賃は四十三銭。避暑に適しており、景観にも恵まれている。多忙をきわめる都会人が、疲れを癒すひとときとして、土曜日の午後に来て、翌日曜日の夜に帰京することも可能であるという。主な旅館として、山王町の松林館、南下町の禱龍館、停車場裏の海雲台と招仙閣、北下町の甲喜楼の名が上げられている。海雲台は停車場裏の山腹にあるとしているが、他の文献等に名が見られず詳細は不明。同じ停車場裏の招仙閣（松仙閣は誤植）との関係も不明。

大磯海水浴の評判は益々高くなりつつあったが、一方で海水浴場周辺には民家が密集しており、塵芥や水処理の不備など衛生面の不安から、伝染病の発生が懸念されていた時期もあった。

大隈重信が大磯の避暑保養を終え、帰京したことを報じている。大隈が大磯に別荘を構えたのは、明治三十年であるため、旅館等に逗留していたことが考えられる。

暑熱の酷しきに伴れ大磯に於る海水浴客は逐日増加の一方にして去る十日同地各旅店より警察署へ届でたる滞在客数は總計六百九十六名なりしと

（『横浜貿易新聞』明治33年8月14日）

●避暑地への電話に就て

電信線を応用して電話を開設されたる大磯、鎌倉、宮の下等の避暑地への通話は日々発話の数を増加し頗る好成績を顕はしつゝある由なるが如何せん電話専用の電線にあらざるより電信の符音を混伝して稍聞き渋る心地はすれども通話を開始すれバ自然電話の電流の為めに電信の電流ハ排壓されて些かの障碍なく明確に通話し得るに至ると云ふ　又此の間の電話は多く避暑客の便利を計るが為に夏季の初めに於て計画され夫れと同時に急設したるものなれば多少不完全の所もあり目下改善工事中なりと　而て箱根湯本にも電話所開設の筈にて工事中なるが今明日中には通話開始の運びに至らんと云ふ

（『横浜貿易新聞』明治34年8月27日）

●大磯の海水浴

県下の大磯海水浴開きは本月第二日曜（十二日）に行ふ由なるが　例年紛擾ある宿屋と掛茶屋の衝突に就き浴場創設以来の模様を記さんに掛茶屋営業者眞間長五郎外六名ハ宿屋組合へ対し初年三十円を納め掛茶屋の特権を得たるが　年を経るに連れ八十円、百円とトントン拍子に高まり来り三四年前よりは二百四十円と値上げせしが　さて右納入金の分配方法と云ふを聞くに縁故浅からざる軍医総監松本順氏に若干を贈りたる上　残額は海水浴を終ると同時に宿屋組合一同は箱根湯本の福住に骨休みをなすを例となし来りて掛茶屋及浴場は殆んど宿屋の専有物として町民一般も別に怪まざる有様なりしが　一方掛茶屋は二百四十円の納入酷暑にともない、大磯の海水浴客は増加の一途で、各旅館から警察署へ届け出た滞在客数は、八月十日現在で六百九十六名という。

大磯では小田原電気鉄道の供給により、明治三十一年に初めて電灯が点いている。次いで、大磯で初めて電話が開設されたのは明治三十四年のことであった。記事からは、大磯、鎌倉、宮ノ下（箱根）など、政財界人の滞在する避暑地で需要が高かったことが分かる。なお、大磯における最初の電話の設置場所は電信電話局内の二回線で、民間での一番最初は伊藤博文の本邸「滄浪閣」であったという。伊藤はこの年の六月まで第四次伊藤内閣で首相を務めていた。

この年（明治三十六年）の海水浴開きは七月十二日（日）であった。

明治十八年に海水浴場が開設されて以来、浴客の更衣や休憩の施設として設置されてきた掛茶屋（海水茶屋）は、かねてからその運営方法に問題を抱えてきた。当初は、治療目的で海水浴に訪れた宿泊客のために旅館が設けた施設であるが、次第に営業が成り立つようになると旅館以外の営業者が現れる。規則上は、大磯の住民で規則を遵守さえすれば、誰でも金をなすに就ては自然浴客に愛嬌を振り撒き茶代の一文も多からん事を希ひ　又は暴利を貪る為め延ては客足を止め折角得来りし大磯町の繁昌を殺がるゝ有様より　斯くては宿屋への影響も少からずと勝手の理屈を附し昨年ハ掛茶屋を改選し従来営業せし事なき七名を選定せし上　二百四十円を更に三百円に値上げさせんと企てたるより　斯くと聞込みたる眞間等一派も負けず劣らず競争なし等しく敷地拝借願書を出したる騒ぎが遂に参事官出張の上実地踏査の上双方に許可する事となり新旧十四軒の掛茶屋ズラリと開業せしも　眞間一派は宿屋の専横を憤りたる余り従来の二百四十円ハ愚か一文半銭をも納入せざりき、然るに本年も去る三月頃眞間等は率先して敷地拝借願を出したるが町長宮代謙吉氏は昨年の如き宿屋と茶屋の衝突ありては唯だに物騒がしきのみならず土地の盛衰にも関する由々しき大事なれバと四月中区会議員に協議し一切従来の慣例を廃し掛茶屋は大磯町にての営業と為し客の待遇方法茶代等に至る迄規定を設け大磯町の名を以て敷地拝借海水浴場設置願を為す事と決し願書を差出したるより　去月十七日参事官出張実地見分をしたる上　双方の陳情を聞取り帰庁せしが本月一日に至り大磯町よりの出願に対し許可したると同時に眞間一派の旧掛茶屋営業者の願書ハ却下となりここに一段落を告げたるより愈々前記の時日を卜し花々しく浴場開きを行ふと云ふ（『横浜貿易新聞』明治36年7月7日）

●大磯海水浴開き（来十一十二日）

同地旅亭組合協議の上浴場組織に大改良を施し来十一、十二（雨天順延）の両日花々敷開所式を挙ぐる筈にて当日の余興には角力、烟花、遊泳等ありと　尚ほ同地の旅籠料は一等六十五銭より三等四十五銭、昼食料は一等三十銭より三等二十銭茶屋を出すことができることになっていたようだが、実権は旅館が握っていた。記事中に掛茶屋営業者七名が宿屋組合から権利を買い取っている内容からも察しがつく。そして、その支払い金額は、初年の三十円から八十円、百円と値上がりし、三、四年前からは二百四十円になったのだという。それでも、昨年（明治三十五年）は十四軒もの掛茶屋が出店していることを考えれば、それだけ海水浴への投資に魅力があったのだろう。しかしながら、宿屋組合の特権と際限なく高騰する出店料が、大きな諍いに発展してしまう。それを受けて町では、これまでの慣例をすべて廃止し、町が実質の許認可を出し、浴客の接待方法や茶代などの細かな規定を設けて運営することになったのである。事態は一応の収束をみたが、この問題は以後もくすぶり続けることになる。後に、明治四十三年、大正四年、大正八年、昭和九年の各年に再び問題が再燃し、その都度改変されることになる。

新たな海水浴場の運営による開所式（海水浴場開き）の告知で、角力（相撲）、花火、遊泳大会などの行事が予定されている。また、この年の旅館の宿泊料や昼食料の

なりといふ（『横浜貿易新聞』明治36年7月9日）

●大磯の海水浴開き

（前略）海水浴場は愈々去十一二の両日を以て本年の開場式を挙げたり、衣類の着換所並に休憩所は例年の如く濤龍館裏の磯の岩根に柱建てゝ数十間に亘れる小屋掛けをなし、当日の賑ひの一つなる素人角力の土俵は前夜中に出来上りて力自慢の磯の海士の子が其日の晴れ場所に鉄の腕競べをなしけり　（中略）　尚ほここに記すべきは従来六七軒の旅店にて専有し来れる海水浴場も本年よりは斯る閥を打破りて所謂大磯町の共同浴場となり、監督者は平野幸太郎、岩田幾三郎、二宮善吉の三名を置きて浴客の便るのみならず、十四人の浴客保護人を置くなど此処大改良なれば随って浴客専門に営業し来れる濤龍館、招仙閣、角半、山幾登、石井、かきや、油屋、中村屋、叶屋、百足屋などの旅店も大勉強にて親切に客を取扱ふべしといへば例年よりは一層の繁盛を見るべしとなん

（『横浜貿易新聞』明治36年7月14日）

●海水浴取締法

本県庁にては毎年夏季各処に開設する海水浴場取締方、稍々緩慢に失し之を改正を加ふるの必要を認め近日厳重なる取締法を発布する由なるが従来各浴場を看るに孰れも男女の混浴にて中には多くの醜業・混じ客を誘ふ杯風紀上取締を要する悪風の年一年に増長する傾向があるを以て本年よりは男女浴場間に柵を設けて混浴を厳禁する方針なりと云ふ　（『横浜貿易新聞』明治37年5月7日）

●海水浴場取締規則

本県於ては海水浴場に於ける風紀取締の為昨日県令を以て右規則を発布したり

（『横浜貿易新聞』明治37年5月10日）

●昨今の大磯

七月十二日に海水浴場の開場式を実施した。衣類着替所と休憩所（海水茶屋・掛茶屋）は、例年通り「濤龍館」裏の磯浜に設けられた。そして、余興のひとつとして相撲が行なわれていたことが分かる。開場式に限らず、かつては村の祭礼などで必ず相撲を行なうことが多かった。当時は、相撲に対して少なからず儀礼的な認識を抱いていたようである。

なお、前述の記事にあるように本年からは町の管理による「共同浴場」となり、三名の監督者と十四人の浴客保護人を置くことになった。当時の海水浴客専門として営業していた旅館の名前も確認できる。

既に神奈川県令として明治二十二年に告示された水浴場取締規則の中で「婦女の為め特に設けたる浴場」には、付添人の他は男子が入ることを禁じており、大磯においても従来から男浴場と女浴場を分けて開設していた。しかし、思うように遵守されないことから、男女浴場間に更に柵を設けて混浴厳禁とする取り決めがなされた。明治三十七年五月十日付で、県令として発布されている。

去年の秋頃からヒッソリ閑として声なかりし大磯も夏来れば年年歳々の習慣とて早くも避暑客の別荘、貸間を約定に入り込むもの多く前日も一清商が濤龍館の貸間を借らんと申込みたるも金円に換へられぬ前約あればとて断はられたる程にて例年に比べて上景気はやがて来るべき模様なり　又一昨日は東京の紳商連といふ八十余名の一団体午前十一時五十一分着の列車にて着したるより其旅館に充てられたる濤龍館にてはいろいろの旗を押樹て楽隊を先登に停車場まで出迎へ出でたるが之が為め同町は一時に色めき渡り長の間欠伸に倦み疲かれ果てたる紅裙隊も売れ切れの盛況を呈したりと

（『貿易新報』明治38年6月17日）

●大磯海水浴の前景気

一時非常の景気なりし大磯海水浴は去る三十四年頃より年年客足の減ずる傾きがあるが其原因は種々のあるべきも江の島、鎌倉、鵠沼等に海水浴場の設られたると大磯は諸物価高直との評判立ちたると海水浴場及び其附近は下町の塵芥捨場と成り居りて夏期に至れば浴場の鼻先きのみ掃除を為し其他は不潔極り居れば自然客足薄らぎたるものならんといふ　是を以て去る三十六年中宿屋組合規約を改正し宿料を低廉にし客扱を丁重にし浴場更衣所に於ても茶代を受けざる事と為し　又同年吉澤警察署長赴任せられてより衛生上に付保養地たるの設備なきは遺憾なりとて清潔法の励行を始めたるより　昨三十八年は戦争未だ終局を告げざるも之等の諸設備に注意したる為め比較的浴客増加したるが　本年は又々署長自から其任に当り巡査部長巡査を督励し宮代町長に交渉して海岸に捨つる塵芥は運搬人を定めて之れに請負はしめ海岸には塵一つなきまでになさんと之れが実行を見るに至れり　又海水旅館長生館　角半楼　元宮代分

大磯では冬場の避寒地としても知られていたが、それでも夏場の賑わいに比べれば町は静かであったようだ。しかし、夏が近づくにつれ、別荘や貸間の確保は次第に困難になる。大磯の旅館や茶屋、貸間を提供する家では、その多くが「お馴染み」などと呼ぶ顧客の利用が大半を占めており、当時の海水浴の性質が窺われる。記事では団体客が大磯駅に到着すると、歓迎の旗や楽隊の出迎えがあるなど賑やかな様子が記されている。

明治三十四年頃から、大磯海水浴場の客足が年々減少しているという。その原因は、江の島、鎌倉、鵠沼など各地に海水浴場ができたことで、浴客の分散化が進んだこと、大磯は物価が高いという評判が立っていること、海水浴場周辺不衛生なことだとしている。そこで、宿屋組合においても対応を強化し、明治三十六年から規約を改正して宿泊料金を下げ、客への応対も丁重にすると共に、更衣所では茶代を受け取ることのないようにすることなどを申し合わせた。

なお、海水浴場周辺の衛生管理は、従来からの課題であり、ゴミの収集についての対応を図っている。また、旅館においても海水浴客の利便を考慮した改築が進んで

店事大内館は何れも改築し浴場旅館として完全の設備出来したりと云ふ

（『貿易新報』明治39年6月9日）

●大磯の海水浴

（前略）本年四月一日より汚物掃除法施行せられ吉田巡視は日日衛生組長及び掃除人夫を督し汚物掃除法を励行し警察署員は清潔法を厳に行ひ居れば町の体裁前年に打て変りたりとは町民も客の待遇に付て一層注意せんと互に戒め合ひ居れりと云ふ　（『横浜貿易新報』明治40年7月27日）

●中学校生徒の海水浴

県下小田原町にある第三中学校生徒二百余名は本年の夏期休暇には大磯町に滞在海水浴を為さんとて此頃校長阿部傳氏大磯に出張し其期間小学校内を借受け且つ浴場休憩所を設くる事に付き中川町長吉松署長朝倉校長等に交渉せしに何れも快諾一層便宜を與へんとて目下準備中なり

（『横浜貿易新報』明治42年7月11日）

●海水浴紀念祭余興

中郡大磯町海水浴場紀念祭は去四日挙行したるも其余興は去十五、十六日の両日に日延しありたるを以て十五日夜は町内各戸国旗球燈を出し浴場に於て数十発の烟火を打揚げ午後より照ヶ崎にて平塚町若者連の新演劇を催し非常なる賑ひにてありたるが又十六日は終日浪乗泳遊の競争ありしと

（『横浜貿易新報』明治42年7月18日）

●経営の逆戻協議　大磯海水浴場

湘南大磯町の海水浴場は去廿四年中に故松本男が来遊ありしを機とし土地の宮代謙吉　宮代新太郎　中川良智の諸氏は男爵の後援に拠り浴場を開設したる　以来旅館組合にて経営し浴場内に更衣所掛茶屋を設らへ保護者を置きて客を待遇し居りたるに去三十五年中更衣所にある保護者等は無法いることが分かる。

日本最初の廃棄法である汚物掃除法が施行され、塵芥や屎尿等の汚物を町が処分することになった、従来から懸念されていた浴場周辺の衛生管理にとって大きな転機となる事象である。なお、法の施行は一般的には明治三十三年とされており記事の表現と一致しない。

夏季休暇にあたり、いわゆる臨海学校を大磯で実施する学校が次第に増加する。この年、小田原町の第三中学校が来磯するにあたり大磯小学校を借り受けての滞在と海水浴場に専用の休憩所を設置することが認められている。

祈年祭を七月四日に開催した。しかし、何らかの理由により余興が延期された。後日、町内各戸に「国旗球燈」を掲げ、平塚町の若者らによる演劇や波乗競争が催された。ここで言う烟火とは、「音物」という合図用の昼花火のこと。

海水茶屋をめぐり、再び問題が俎上に上がっている。海水浴場開設当初は旅館組合により茶屋を経営していたが、明治三十五年に保護者等と旅館組合との間で紛擾が発生する。保護者というのは、浴な茶代を客に請求するより保護者等と旅館組合との間に衝突起り紛擾に紛擾を重ね警部長県属等の出張調停を試みたる事もありしが　其結果該経営を旅館組合より町に引渡したるが以来は海水浴開きも旅館組合当時と異り至極質素に挙行してさへ収支価はざるより今回元の旅館組合の経営に委せんとの議起り去十四日夜町海水浴委員は役場内に会合し引渡篠件等に付き協議を凝したり

（『横浜貿易新報』明治43年6月16日）

●海水浴開始日

湘南大磯町の海水浴開きは七月三日に挙行し紀念祭は十六、十七日の両日執行　同日は余興として煙火　燈籠流し　平塚素人角力　遊泳競争　地引網　手踊等の催しある由にて本年は旅館経営となりし第一年なれば費用を惜まず最も盛んに挙行すと　（『横浜貿易新報』明治43年6月28日）

●大磯駅の雑沓

打続きの雨天なりしが天候回復したりと雖もメツ切り冷気を催し海水浴を為す日とてはなく徒然に苦み居る滞在客に加へて東京市の惨状は頻々として報ぜらるれば汽車の開通次第帰京せんと待ち構へ居りたる大磯の避暑客は去十六日開通と聞くや吾先きに乗車せんと早朝より大磯駅に詰掛け同日は夕刻に至るまで非常の雑沓を極め車室満員にて取残さるゝ者も多かりし

（『横浜貿易新報』明治43年8月18日）

●大磯の海水浴場開き

中郡大磯町の海水浴開きは去九日の日曜日を以て海水浴場委員　町長　町会議員等浴場に集り例年の通り故松本順男の木像を安置し開始式を挙行したるが同日は東京よりの浴客も余程見へたり尚ほ余興は来廿二三の両日行ふ筈にて里神楽　素人角力　燈籠流し　手踊り等なりと客の安全確保と遊泳指導を目的に茶屋が雇用した「じいや」のことと思われるが、この記事では「じいや」が法外な茶代を請求したことも理由のひとつだったという。そのため、管理を町に移行して質素な運営を行なってきたものの収支は思わしくなく、元の旅館組合の経営を望む声が再燃した。

七月三日の海水浴開きの後、十六、十七日に祈念祭が催されており、同日の高来神社夏季大祭（御船祭）と併せて最も賑わいを見せる時期である。海水茶屋が再び旅館組合の経営に移行している。

この年の夏は大雨の被害が相次いだ。八月九日～十一日にかけての大雨で、相模川（馬入川）や花水川の堤防が決壊し、東海道線も不通となった。十三日より再び雨が激しくなり、被害は更に広がった。東海道線が復旧したのは十六日で、海水浴客は先を争って帰京したという。

海水浴開きを七月九日の日曜日に挙行。海水浴場委員、町長、町議会議員らが集まり、松本順の木像を安置して開始式を行っている。木像というのは、松本の生人形のことで、現在大磯町郷土資料館に

（『横浜貿易新報』明治44年7月11日）

●大磯海水浴場の閉鎖

中郡大磯町の海水浴は避暑客昨今皆無の為来る十日閉鎖（『横浜貿易新報』明治44年9月7日）

●大磯旅館客数比較　本年は増加の見込なり

中郡大磯町海水温浴旅館禱龍館、招仙閣、長生館、大内館、角半楼、山本楼、宮代屋、鍵屋、油屋、叶屋、中村屋の十一戸に対する去三十七年よりの客の宿泊数を掲ぐれば左記の通りなり

三十七年度	三五、五三五人
三十八年度	四一、二九五人
三十九年度	四三、九五五人
四十年度	四五、一六〇人
四十一年度	四二、七六九人
四十二年度	三七、三九一人
四十三年度	三七、九六五人
四十四年度	三八、二四六人
四十五年度六月卅日迄	三、〇四〇人

以上の如くにして四十年度の四万五千百六十人は最高点を示したるが四十二年まで減少し四十三年より追々と増加し来り例年六月卅日までは一千六七百に過ぎざる所本年は三千四十人の宿泊数の好成績を現したれば本年は天候に大なる変動なければ四十年度に下らざる客を得る見込なりと云ふ

（『横浜貿易新報』明治45年7月14日）

●避暑客は例年の八分

先帝崩御大喪中なれば避暑客の減少は当然の事と予期し居たるが去五日までは大磯町に入込たる客数は旅館三百七十五人貸別荘貸間千〇〇七人なりしもの　十日の調査に依れば五日間内に激増して旅館四百四十人其他に千六百余人にして二千余名となり毎日の海水入浴者は千七八百人位にてここ五六日間を過ぎれば三千の客は入込むなるべ

保管・展示されている。かつてはご神体的な扱われ方をしていた。

かつては、避暑客の状況を見て海水浴場の閉場を取り決めており、毎年決まった日ではなかった。

大磯町内の十一の旅館を対象とした宿泊客の統計である。それによると、四万五千人余りの客数を記録した明治四十年度が最高だったが、その後は減少傾向にあることが分かる。しかし、本年度（明治四十五年度）は、六月末までの宿泊客数が例年を大幅に上回っており、このまま天候に大きな不順が無ければ、四十年度に迫る客数を期待できるとしている。しかし四十年度をピークとした宿泊客の減少は、海水浴客の減少を意味するものではない。別荘所有者の増加、あるいは交通網の発達と浴客の質的変化により、日帰り客の増加や貸間利用者が増加し、相対的に旅館宿泊客が減少したのではないかと考えられる。

明治四十五年七月三十日、明治天皇が亡くなられた。葬儀（大喪の礼）は十三日となり、服喪の期間であるため避暑客の減少を予想していたが、次第に客数が増加し、例年と変わらない状況になりつつ

く例年の四千近きに比し八分位の客数に達する見込なりと云ふ

（『横浜貿易新報』大正元年8月11日）

●海水浴場は寂寞

未だ諒闇中なると前四五日間天候険悪なりし為めか大磯町の海水浴場は実に寂寞とし居れば更衣所浜茶屋も毎日客待顔の体なるが貸家貸間の大半は約束済になり居れりと云ふ　旅館側にては客はお馴染丈にて充分なれば他の客は小面倒臭い一人もなきが増しと大に贅沢の熱を吹き居る例の如し

（『横浜貿易新報』大正2年7月26日）

●避暑客の激増　二千余人の大盛況

諒闇明となり東京の川開きも済み突飛なる冷気も去三日正午頃より恢復したる故にや　是まで寂寞たりし大磯の避暑客は激増し確かに二千余となりたるが其内の重なるは伊藤文吉男、渡邊千春、赤星鐵馬、島津伯、高田慎三、高木兼寛、浅野總一郎の諸氏なり　又海水浴場の入場者は二日百五十二人三日は高浪にも拘らず七百余の盛況なりし

（『横浜貿易新報』大正2年8月6日）

●海水浴場町営　旅館組合持余す

中郡大磯町の海水浴場は最初旅館組合の経営なりし処　明治三十三年町経営となり同時に更衣所出方も交替させんとし一大紛擾を起し七軒の更衣所が十五軒にもなりたりしが　其後元の旅館組合経営に戻り十年間継続し来りたるが　近年高浪の災害打続き毎年更衣所を浚はれ其損害多大にして旅館組合も大に持て余したれば　本年より又々町経営と為すこととなりたるが何時も町経営と為す時は無責任の遣り放しにて浴室の不平満々なるが今後の経営振り如何にや

（『横浜貿易新報』大正4年6月20日）

●日曜の大磯海水　盛夏も及ばぬ繁昌

あることが記されている。服喪期間といえども、例年と変わらない人出が予想されている。

いよいよ盛夏ではあるが、未だ諒闇中であることに加え、天候不順により海水浴場は閑散としているという。それでも旅館側は馴染み客の利用があれば十分であると強気であり、その経営姿勢の一端が窺われる。諒闇というのは儒教の考えに基づいた服喪期間のこと。

明治天皇の崩御日である七月三十日を過ぎて諒闇明けとなったことが分かる。諒闇明けによって避暑客も増加し、伊藤文吉（伊藤博文子息）や軍医総監を務めた高木兼寛、実業家の浅野総一郎などが来磯したことを伝えている。

大磯海水浴場と海水茶屋経営の経緯が記されている。当初の旅館組合の経営から、明治三十三年に町経営に変わり、同四十三年に再び旅館組合の経営に戻った。しかし、近年災害が続いて旅館組合による経営に支障を来たしているため、本年から再び町経営とすることを伝えている。一方で、町の経営方法への批判も根強かったことも窺える。

去十六日は盂蘭盆と藪入と兼たる日曜日なりしを以て大磯海水浴場は土曜日より入込みたる浴客京浜各商店　藪入小僧連　外国人も加はり一時に押懸け来り盛夏も劣らぬ賑ひにて非常の雑踏を極め海岸及市中の飲食店料理店も相応に繁昌したるが　横浜市商店の小僧連の一隊が海岸の某掛茶屋に陣取り女将に対し今日一日遊ぶと申込みビール、サイダー、氷水、鰻丼と註文し互に英語を以て談話し大に英語通を振り廻し嘔吐を催す程の生意気に女中も煙に巻かれ居りたるが　其間浴場取締の警官は彼所此所と巡回茶屋の前を何回となく往き来ふに英語を以て之を批評し或いは悪口を云ひ居りたるも巡査は堪忍知らぬ顔して居れば　小僧連益々図に乗り田舎巡査丈に英語を知らぬと罵りたるに巡査は立戻り来り生意気小僧に対し懇々説諭し将来を戒めたるに流石の横浜小僧も大に恐れ入り初め大威張何処へやら女将にも女中にも面目なげに悄然として立ち去りたるは笑止やら御愛嬌やらであつたとさ

（『横浜貿易新報』大正5年7月18日）

●招仙閣の廃業　伊藤公没後の凋落

中郡大磯町停車場上の大旅館招仙閣は明治廿年頃峰岸棟太郎氏の創業したるものにて故伊藤公在世中は幾多の政治家、軍人、官吏の定宿として大に全盛を極めたりしが伊藤公没後頓に寂寞となり家屋全部は加藤正義氏に売却し之を賃借し辛ふじて営業を持続し居りたるが何か家内に事情ありてか去一日限り廃業の旨大磯警察署に届出たるが大磯関門の大看板を失ひたり

（『横浜貿易新報』大正5年10月6日）

●海水浴場設備　人工設備を加ふ

中郡大磯町の海水浴場は是までは少しも人工を加へず天然の儘なりしが近年に至り浴客の非難多が重なり、海水浴場はたいへんな賑わいであったという。藪入りとは、商家などに奉公している子弟が実家に帰る休日のこと。この日、藪入りを利用して海水浴場へ来た若者たちが、海水茶屋に陣取り、我が物顔に振舞っていた。特に、英語を交えて話しながら、巡回中の巡査に対してもかなりの悪態をついたため、堪忍袋の緒が切れた巡査により、懇々と説教を受けたという。かつて、海水浴は経済的余力のある人たちによる転地療養における治療の一環であった。海水茶屋も、いわばそのような人々の社交場の様相を呈していた。つまり、記事中の横暴な若者の出現は、海水浴客の質的変化を如実に物語っている証左といえよう。

旅館「招仙閣」の廃業を伝える記事である。招仙閣は大磯停車場裏にあった老舗の大旅館である。かつて、伊藤博文が別邸（後に本邸）滄浪閣を建築する際に、同旅館で指揮を執るなど、多くの著名人が利用した。大磯を代表する旅館を失うことになり、大きな痛手となることが心配されている。

大磯海水浴場の改善工事の記事で、堤防を貫いて浴場に下りる階きより本年は人工設備の第一着手として浴場入口の階段をコンクリートにて蓄設する事とし土地の請負業小巻角次郎の請負にて工事に着手したり杉原惣次郎氏の奔走にて昨年海水道路は新設され追々と改良さるゝを以て来遊客に満足を與ふるに至るべし　（『横浜貿易新報』大正6年6月5日）

●海水浴場改善　大に客の待遇に努む

中郡大磯町にては本年より海水浴場の設備に大改善を加へんと予てより計画中の処　今回其第一着手として是まで旅館組合経営にて南浜浴場砂地に八棟、北浜浴場に二棟、堤防上に一棟の更衣場兼帯の休憩所を設け　又堤防上に二棟の個人経営の飲食店の設備ありし処　此南浜浴場に属する更衣場は総て浴場に接近の砂地に移し　堤防上二棟の飲食店を廃し此処に旅館組合経営の間口十三間奥行二間の長方形の一棟を建設し之を四つに区画し入札を以て賃貸し専ら其日帰りの浴客及学生等の便宜を図り　販売の飲食物に制限し二十銭の弁当を販売し来遊客より暴利を貪る等の事なき様厳重なり取締を為し僅々四五十銭にて一日の清遊を試みらるゝ計画にて目下其準備に鞅掌しつゝあり

（『横浜貿易新報』大正6年6月30日）

●浴場卅年記念　松本男の碑も建つ

中郡大磯町の海水浴場は明治二十年中に故松本男爵の主唱にて開始せられたるものにて本年を以て三十ヶ年に相当するに依り来る廿八、廿九の両日照ヶ崎の浴場前に於いて三十年記念祭を執行し余興には東京丸一大神楽煙火素人相撲等を催す由因に今回海水道路中央に故松本男爵の碑をも建設したり　（『横浜貿易新報』大正6年7月13日）

●大磯海水浴場　町営となる

中郡大磯町の海水浴場は明治十九年に開始されたる以来旅館組合が経営の任に当り浴場開始式其段を新設した。なお、杉原惣次郎は、南本町で開業していた医師で、千畳敷（現湘南平）の観光開発や海水道路の開設に尽力した。海水道路というのは、南本町の国道から照ケ崎の海水浴場へ通じる道路で、浴客の利便は格段に高まった。

前述の記事に引き続き、海水浴場の改善についての記事である。改善内容は、旅館組合の経営する海水茶屋を整備する内容で、南浜浴場に八棟、北浜浴場に二棟、堤防上に一棟の茶屋を設ける他、堤防上にある二棟の飲食店を廃し、代わりに新たに一棟を新築して入札により四区画を賃貸することで日帰りの浴客や学生たちの便宜を図るという。また、二十銭で弁当を販売するなど、四、五十銭あれば一日過ごすことができるようにすることを計画している。

大磯海水浴場の三十年記念祭開催の告知である。記事では浴場開設が明治二十年であり、三十年を記念して「松本先生謝恩碑」が建てられたとある。しかし、実際の浴場開設は明治十八年で、謝恩碑の建造も昭和四年のことである。記事内容と大きく乖離している。

再び海水浴場の経営についての

余興等に至るまで花々しく挙行し七軒の茶屋出方を指揮し其経営振り遺憾なかりしが　同三十四年に至り出方連中は浴客より暴利を貪り旅館組合に対しても横暴の振舞ありたるやにて従来の出方七軒を廃し更に七軒茶屋を建て之れに交替させんとしたるが動機となり旅館組合と旧出方との大衝突起りたるが　翌三十五年に至り旧出方七軒に新設の出方三軒加はり掛茶屋を警業する事となり其経営も町に移したるが役人主義の遺り口にては浴客との間に円満を欠き終に経営不可能となり一千数百円の借金を残し大正四年度より其経営は専ら旅館組合に委託し今日に及びたるものなるが　毎年の如く更衣所休憩所は高浪の為め破損し浴場事務員保護者等の諸給も年々増加し此等の費用と借金の利拂等多大の費用を要するも　大磯町としては僅かの補助を為すのみにして大部分は旅館組合の負担なるに　之れに反し海水浴客に付ての利益は旅館の独占にもあらざれば浴場は町営にて当然なりとの理由の下に本年度より全く同町にて経営する事となりたり

（『横浜貿易新報』大正8年7月4日）

●大磯禱龍館の披露会

中郡大磯町海水旅館禱龍館は故中川外次郎氏が明治十九年創立し一時は湘南の大旅館として盛大なりしが　外次郎氏死去後女將トク子は三男四郎の名義にて営業し今日まで持続し来りたるも家事の都合にて今回東京芝区神谷町三吉和田秀雄氏に譲り渡したれば　氏は来る十二日午後五時より町内有志を招待し開業披露会を催す由

（『横浜貿易新報』大正9年6月10日）

●教員の水泳講習

来る八月一日より大磯小学校内に開会さるゝ動的教育教授法講習会を好機として本県師範校教諭

記事である。繰り返しになるが経過を記すと、明治十九年から旅館組合の経営として七軒の茶屋を設置していた。しかし、実際に茶屋運営に携わっていた出方と呼ばれる人たちと浴客や旅館組合との間で利害関係がもつれ、明治三十五年に、それまでの七軒の茶屋に加え、新たに三軒の茶屋を新設し町経営とした。ところが「役人主義」の経営方法が破綻し、大正四年には再び旅館組合の経営に戻ったという。しかし、浴場従事者の人件費が年々増え、更に毎年のように高浪の被害を受けることから多大の借金を抱えるに至っている。町からの補助も僅かで、浴客のもたらす利益も思うように旅館側へ渡らないため、本年（大正八年）より再び町経営にするのだという。浴場開設以来三十四年を経た今も揺れ続けている状況が読み取れる。

診療所を併設する海水旅館として、いわば当時の海水浴を象徴する存在であった禱龍館の消息を知ることのできる記事である。この頃の同館は経営者が変わるも、未だ営業を続けていたことが分かる。しかし、その後の関東大震災で被害を受け、経営に大きく影響する。

水泳講習会の開催を告知する記

河津彦四郎氏を聘し一日より六日間大磯町海水浴場に於て水泳講習を為す由なり

（『横浜貿易新報』大正9年7月15日）

●県下六海水浴場の衛生価を試験　海水、空気、井水、牛乳の化学的並に細菌的試験

県下の避暑地として知られて居る大磯、片瀬、鎌倉、逗子、葉山、三崎の六海水浴場に付其の衛生価を試験する為め本年の七月から八月に亘り内務省衛生試験所技師四方敬一、植木良佐、同技手小毛利利三、齋藤良蔵、小林英一、猿橋繁、同嘱託高橋春雄、本県衛生技師多田亮の八氏が協力して前記各海水浴場の海水、空気、飲料水（井水）販売牛乳の化学的並びに細的の試験を行つた結果大体次の如き成績を示すに至つた（中略）大磯海水は良いが町家が浴場に接近して居る為め雨後の如きは甚だしく海水が汚染する、空気は比較的良くない、井水は概して不良、牛乳は頗る良い

（中略）試験の結果の概評は右の如くであるが更に海水に就いての試験に依つて見ると

地名	外観	浮遊物	塩分含有量
大磯	微濁	稍少量	三三九二
片瀬	微濁	少量	三〇八八
鎌倉	微濁	稍少量	三〇〇三
逗子	澄明	微量	三四四八
葉山	澄明	微量	三四六三
三崎	澄明	微量	三四二三

空気中に含有する二五立中の蘭数は大磯一〇〇〇　片瀬一二〇〇　鎌倉九二〇　逗子六八〇　葉山六　倉逗子の順で三崎が最も良い

（『横浜貿易新報』大正11年9月18日）

●改善される避暑乳設備　案内札頒布、渡船場開設

（前略）本年よりは停車場前に案内所を設け事務員詰切案内札を同駅に下車の浴客に洩れなく渡

事である。このような事業も、いわば海水浴の大衆化に伴う変容の事例のひとつといえる。

大磯、片瀬、鎌倉、逗子、葉山、三崎の六箇所の海水浴場において衛生技師による衛生検査をする旨を伝えている。検査内容は、海水浴場の海水、空気、飲料水（井戸水）と、販売されている牛乳の品質検査であった。その結果、大磯では、海水の水質は良いが、海水浴場に町家が近接しているため、降雨後は汚水が流れ出し、海水を汚染すると分析している。現在でも実施されている海水浴場の水質検査は、既にこの頃から始まっていたことが分かる。

また、その他の検査項目中、空気や井戸水はあまり良くないが、牛乳の品質は絶賛されている。大磯における牛乳は、明治中期以降に著名な政財界人などの別荘が林立する中で、先進的な嗜好や奢侈な生活が大きく関わっていたことが考えられる。旧大磯町で最初に乳牛を飼育したのは明治十八年と比較的早かったが、当時は自家での搾乳技術はなく、各地の牧場への貸牛を目的とした飼育であった。自家で搾乳するようになったのは大正中期以降である。

し其案内札には貸家貸間宿屋の宿料　昼食料　入浴料金　名勝旧蹟等図面を添へ記入したものと二十余万枚印刷する筈である　又浴場上には長生館の経営する間口十二間奥行三間半の簡易食堂を建設するので目下工事中である　大磯平塚間の花水川下流には七八九の三ヶ月間渡船場を設け平塚海岸より来たる浴客の便に供するのである　尚海水浴場の更衣所休憩所は既に出来上り来る七日の土曜日に海水浴場開始式を挙げる筈

（『横浜貿易新報』大正12年7月1日）

●照ヶ崎隆起海岸を爆破開鑿して海水浴場漁船の出入を便にする計画

大磯町照ヶ崎の海水浴場は既報震災のために磯が隆起したので浴場としても漁船の発着にも資格がなくなったので大磯水産会では工費五万円に対し約五割の補助を農商務省に申請中であるが許可になればカブト岩附近に長さ八十間の防波堤を作りダイナマイトにて干潮面から三尺乃至七尺の深さに左記の諸岩を爆破し　ボタモチ岩、コサバリ岩、大明神、小根磯、横根磯、長磯　浴場としても船の着陸場としても適当なものにするとの事であるが竣工期はまだ計画だけであるから前途全く遼遠で今夏の海水浴には全く間に合ぬとの事である

（『横浜貿易新報』大正13年2月26日）

●地震で良くなった大磯の海水浴場
休憩所との間が遠いので不取敢応急の工事と

中郡大磯町の海水浴場は震災の為め隆起したので天然的良浴場となったが休憩所と浴場まで距離があるので其通路と漁舟の舟揚場を設置の必要ありて其工事費十万円以上の見込なれば大磯町及大磯漁業組合で四万余円寄附し県事業として工事を為す筈であるけれども未だ具体的設計成らず　来七月第一日曜日海水浴場開きまでには到底間に合

大磯停車場前に案内所を設置し案内書を配布するなどサービス向上に努めている。また、長生館が簡易食堂の建設を進めているとある。長生館は、前身であった松林館が大磯の大火によって焼失後に移転・再建された旅館であった。なお、花水川河口に橋がかかるのは、昭和六年に着工された湘南遊歩道路が、大磯に延伸する昭和九年まで待たねばならない。

大磯海水浴場は、大正十二年九月一日の関東大震災によって、一・二メートル余り隆起した。そのため、海水浴場としても、あるいは漁港としても不具合を生じていた。もともと海水浴場と漁港を共用していたこともあり、遊泳と漁船の揚げ下ろし双方の機能を保たなければならないという板ばさみに遭いながら復旧工事を進めることになる。大震災を契機に、海水浴場の景観が大きく変わっていくことになる。

前記事とは相反して、地震による隆起は海水浴にとって影響は少なく、むしろ遊泳しやすくなったと記している。しかし、隆起によって浜が広がり、漁船の船揚場を設置する必要に迫られる。やがて、この復旧計画は、大正十四年三月はざれば大磯町の杉原医師は町の寄附を得て応急工事を施すやう藤田町長に迫り承諾を得目下浴場までの通路の設計上であるが　杉原氏は去大正五年に海水浴場道路を開き大磯遊園地千畳敷の道路を改修した町の功労者であるが今又此企画あるは奇篤と云ふの外なし

（『横浜貿易新報』大正13年6月15日）

●海水浴場開始式　淋しい人気

大磯町海水浴場開始式は七月三日挙行　海水委員は委員会を置き浴場設備に付出方茶屋に命じ準備怠りなく　町民は店頭の装飾家屋の手入其他に付大多忙を極めて居るも貸家別荘の借人は更に見へざれば本年の海水客は大震災以来の寂しさである様想像さるゝ　震災以来避暑客年々減少するは土地隆起の為め井水枯渇し飲料水、洗濯水等に不自由であるのが原因の重なるものであらう

（『横浜貿易新報』大正15年6月21日）

●押すな押すなと海水浴の大賑ひ
大磯は水がないので　その日帰り客多し

大磯の海水浴は悲観されてい居た処この暑さに京浜から続々として入込来り毎日大磯駅の昇降客は二千五六百人で日曜、祭日は三千人を突破するので盛況で海水浴場も満員であるが余り照り続く為め南北北町　南北本町　茶屋町　台町等は井水枯渇し飲料水にも差支へるので海水浴客も滞在する能わず其日帰りの客が多いので隨つて停車場が雑踏するのである（後略）

（『横浜貿易新報』大正15年8月3日）

●湘南海水浴場で避暑客誘致計画
共同戦線を張って努力、

（前略）平塚、大磯、茅ヶ崎、藤沢、片瀬の一流海水浴場を控えた湘南期成同盟会では房総沿岸を向かふにまはして避暑、海水浴客の招致に共同から大正十五年九月までの一年半にわたる総工費十一万円をかけた大工事の実施につながる。工事内容は、浚渫、岩盤切取、護岸、防砂堤、防波堤、水路掘削などが行なわれた。

関東大震災以後、避暑客は年々減少していた。この年も、海水浴場開始式は七月三日を予定しているが、貸家や別荘を借り受ける浴客の予約が少なく、関東大震災以来の寂しさであるという。その主な理由は、地震によって土地が隆起し、井戸水が枯渇し、飲料水や洗濯水などに不自由をきたしているためではないかと分析している。

心配された人出も、連日の暑さに海水浴場は満員であるという。しかし、雨が降らず井戸水は涸れ飲料水にも事欠く状況のために日帰り客が多いのだという。かつて、浴場周辺の井戸は日照りが続くと容易に涸れてしまったと伝える人が多い。しかし、唯一、裡道にある大井戸だけは水が涸れなかった。天保井戸、シイド、ガンガンの井戸などと呼び親しまれた大井戸は、多くの人々の窮地を救った。災害時用の井戸として現存する。

この頃になると、各地に海水浴

戦線を張らうと云ふ申し合せが出来て海水浴の共同宣伝や無料更衣所の共・切符なぞを発行して湘南の海を広く天下に紹介しようと云ふ大計画である。（後略）（『横浜貿易新報』昭和6年5月14日）

●貴族的海水浴場を民衆的に開放

大磯町漸やく目ざめて設備を充実

平塚町は従来通りの一本調子で

（前略）海の施設については大体に於て前年度の踏襲であるが時代の流れに応じて無料更衣所を二ケ所に設置し監視人一名づつを置いて従来附・・されてゐたものを大衆向きの浴場にしようと云ふのである、貸ボートは一時間五十銭であつたのを更に引下げる交渉中である、海水浴場は従来の位置を拡張して鴫立沢下から大島根まで約八十間延長する事になつた　此の外避暑客の貸別荘、貸間の案内所は十六日から大磯駅前に開設し町営海水浴場食堂も値下げの調整中である、又大磯と相前後して平塚町では青年団主催町後援の下に民衆的浴場をモットーとして華々しく開場の筈で施設等については両三日内に決定を見る事になつた　吾妻村二宮、梅津の海水浴場は七月下旬に海水開きを行ふ事になつてゐる

（『横浜貿易新報』昭和6年6月10日）

●海水浴場茶屋　青年団で経営

大磯町海水浴場茶屋問題について十五日町会協議会を開き町が直営により青年団に委託して町営海水浴場更衣所と銘打つて開設することになり在郷軍人、青年団員が監督となり黒坊主六名、女中六名を置き料金は大人一回十銭、子供五銭で避暑客の需めに応ずる事となつた

（『横浜貿易新報』昭和9年6月17日）

が林立するようになる。そこで、湘南地域の海水浴場では、既に結成していた湘南期成同盟会によりキャンペーンを企画し、房総方面に対抗する。大磯町郷土資料館には、茅ヶ崎・平塚・大磯共同の誘致ポスターが残されている。

海水浴場客の質的変化にともない、「大衆向き」の海水浴場に転換させようという試みが続いている。無料更衣所と監視人の充実、貸ボートの値下げ、海水浴場の拡張、大磯駅前に貸別荘や貸間の案内所設置、町営海水浴場食堂の値下げなどを画策している。一方、平塚町（現平塚市）の浴場では、従来どおり青年団の主催、町の後援により、華やかな開場式が企画されている。なお、吾妻村二宮（現二宮町）の梅津海水浴場というのは梅沢の誤記ではないかと思われる

相変わらず茶屋については多くの問題が存在していたようである。この年、町が直営として更衣所を開設することになった。実際の運営は青年団に委託し料金が設定されている。記事中の黒坊主とは浴客の安全確保や遊泳指導を行なう「じいや」のこと。なお、茶屋の問題は今後も続くことになる。